

第 23 回対照言語行動学研究会（JACSLA23）研究発表 概要

2025. 10. 4 開催 於 共立女子大学

タイトル	コーパスに基づく現代英語の語彙 simp の意味拡張と日本語の対応表現についての考察
著者名（所属）	山本五郎（法政大学）
連絡先 E メール	gyamamoto@hosei.ac.jp
発表内容 第一節では、Herring (2004)、Zappavigna (2012)、Sergeant & Tagg (2014) に言及し、インターネットや SNS 上の語彙変化や言語使用の特徴が、近年の言語研究において重要なテーマの一つとなっていることを示した。 第二節では、語彙項目 simp に関する先行研究として Hroteková (2021) と Ugoala (2024) を取り上げ、語法や文脈の分析が十分に行われていないことを示唆した。また、主要英語辞書における simp の扱いについても触れ、Wisdom 第 4 版 (2019)、Oxford Advanced Learner's Dictionary 第 10 版 (2020)、および Genius 第 6 版 (2023) では見出し語として掲載がなく、OALD Online (2025) では「愚か者」など従来の意味のみにとどまっていることを確認した。一方で Merriam-Webster Online (2025) では「恋愛対象や愛する人に対して過度に尽くす人物」という新義が記述されており、名詞・動詞の両用法が示されている。このように、simp の辞書的評価や語義の確立は現段階では統一されておらず、語用論的・語彙論的分析の余地があることを示した。 第三節では、コーパス (COCA, enTenTen21) から抽出した文脈を示しながら simp の名詞と動詞の用法について整理した。名詞としては、近年 SNS やネットで使用されている恋愛的従属、一方的な奉仕、非対等な関係を表す例などを示した。動詞としては、前置詞との共起関係に注目し、「一方的に尽くす」の意で行為志向として用いられる場合や、「夢中になる」の意で感情志向として用いられる場合などを示した。また、自動詞としての用例も取り上げた。いずれの場合にも、報われない立場で一方的に尽くす、入れ込みすぎる、という中心義から派生して様々な文脈で用いられていることを確認した。 第 4 節では、名詞と動詞それぞれについて語義の記述的説明や対応する日本語表現について考察した。 参考文献 Herring, S. C. (2004). Computer-mediated discourse analysis: An approach to researching online behavior. In S. A. Barab, R. Kling, & J. H. Gray (Eds.), <i>Designing for virtual communities in the service of learning</i> (pp. 338–376). Cambridge University Press. Hrotekova, M. (2021). Neologisms or trending words? An analysis of currently used slang. <i>Studies in Foreign Language Education</i>, 13, 48–63. Sergeant, P., & Tagg, C. (Eds.). (2014). <i>The language of social media: Identity and community on the internet</i>. Palgrave Macmillan. Ugoala, B. (2024). Generation Z's lingo on TikTok: Analysis of emerging linguistic structures. <i>Journal of Language and Communication</i>, 11(2), 211–224. Zappavigna, M. (2012). <i>Discourse of Twitter and social media: How we use language to create affiliation on the web</i>. Bloomsbury.	